

# 社 会 科

◎丸山 進一 ○富田 武 武井 正樹 恩河 梢

## 1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

## 2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

## 3 社会科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

<b>ア 問題発見・解決能力</b> 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	<b>イ 批判的思考力</b> 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	<b>ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力</b> 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
<b>調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べること</b>	<b>課題(事象)を、多面的・多角的に考察し、課題(事象)の解決に向けて自分の意見や考えをまとめること</b>	<b>資料等を適切に用いて、自分や他者の意見や考えを発展させたり、合意形成に向かおうとしたりすること</b>

## 4 社会科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編第 2 章第 1 節の社会科の目標には、「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。」と示されている。

本校社会科では、公民としての資質・能力の基礎を育成するために、社会的事象を多面的・多角的に考察することや複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する学習が必要であると考える。そのために、地理・歴史・公民的分野ならでの視野、国内外の社会的事象等を取り扱う地球的な視野をもちながら、生徒を取り巻く多種多様な課題に対して「どのように捉えるのか」「どのように関わるのか」「どのように働きかけるのか」など生徒が自己との関わりの中で問題を見だし、見通しをもって追究し、実生活・実社会の諸課題を解決する学習を構想する。このような学習を積み重ねていくことで、上記ア～ウの資質・能力が育成され、本単元以降の学習（他分野も含む）だけでなく、「あさひのプロジェクト」においても、社会科で育成された資質・能力が発揮されると考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の社会科研究テーマを以下のように設定した。

## 5 令和 5 年度 社会科研究テーマ

社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高める学習の在り方

# 家 庭 科

◎小林 輝紀

## 1 目指す生徒の姿

**豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者**

## 2 全校研究テーマ

**「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成**

## 3 家庭科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

<b>ア 問題発見・解決能力</b> 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	<b>イ 批判的思考力</b> 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	<b>ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力</b> 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
<b>見出した課題に対して具体的な実践を行い、考察したことを根拠や理由を明確にして表現すること</b>	<b>課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案すること</b>	<b>生活をよりよくするために身に付けた力を生かし、実践しようとする</b>

## 4 家庭科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説技術・家庭編第 3 章第 1 節の家庭分野の目標には、「生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとは、家庭分野で習得する知識が、個別の事実的な知識だけでなく、生徒が学ぶ過程の中で、既存の知識や生活経験と結び付けられ、家庭分野における学習内容の本質を深く理解するための概念として習得され、家庭や地域などにおける様々な場面で活用されることを意図している。」と示されている。

本校家庭科では、生徒の生活をよりよくするために身に付けた力を生かし、実践しようとする力を高めるために、模擬家族や実際の対象者などを設定し、習得した知識を用いて具体的な実践を行っていく学習を題材ごとに展開していく。そうすることで課題解決には様々な視点から多角的に判断していく必要があることに気づき、画一的な知識理解に留まらない、より実生活に寄った学びに繋がると考える。

このような学習を積み重ねていくことで、本題材以降の学習（他分野も含む）だけでなく、「あさひのプロジェクト」においても、家庭科で育成された資質・能力が発揮されることが考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の家庭科の研究テーマを次のように設定した。

## 5 令和 5 年度 家庭科研究テーマ

**生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方**